

# 古楽アンサンブルセミナー

2026年10月9日(金) 10日(土) 11日(日) 会場:アクロス福岡内



講師:岩田耕作(古楽アンサンブル指導/チェンバロ/ほか)

主催:新・福岡古楽音楽祭実行委員会、福岡県、福岡市、(公財)アクロス福岡、(公財)福岡市文化芸術振興財団

◆本セミナーのねらい◆

講師:岩田耕作

テーマ:「叡智のミサ」から「ロ短調ミサ」へ バッハにたどり着くまでのバロック音楽の変遷

バッハが当時の最新のイタリア、フランス、ドイツのあらゆる音楽を研究し、自分の音楽に取り入れていったことはあまりにも有名な話です。中でもヴェネツィアの作曲家ロッチェの『叡智のミサ(Missa Sapientiae)』に深く魅了され自らの手で一音一音書き写された楽譜が残されています。この楽譜にはバッハ自身による注釈、アーティキュレーション、低音部への数字の書き込みなども加えられており、いかにバッハがこの曲のとりこになっていたかが伺えます。そしてその研究の結果生まれたのがあの有名なロ短調ミサBWV232です。セミナーではAコース・Bコースでそれぞれのミサ曲を取り上げ、バッハがロッチェから何を学び、どう発展させていったかを比較します。



バッハの手書きによるロッチェのミサの画像

\*楽器を演奏するうえで実際に歌ってみることは非常に有意義な経験です。歌ったことのない方も、この機会に是非積極的に合唱に参加してください。

[募集要項]

※両コースとも古楽ステージ内で成果発表を行います。

| [A コース] |   | [B コース] |   |
|---------|---|---------|---|
| 開催日     | 10月 9日(金) 15:00-16:30<br>10月 10日(土) 11:00-13:30   | 開催日     | 10月10日(土)17:00-18:30<br>10月 11日(日)13:00-15:00 |
| 課題曲     | ロッチェ「叡智のミサ」より   | 課題曲     | バッハ「ロ短調ミサ」より                                  |
| 募集内容    | 声楽・合唱(全声部)、器楽(全ての古楽器)   | ピッチ     | 415hz (弦楽器・管楽器・通奏低音楽器)                        |
| 受講料     | 1コース:3,000円(学生1,500円)   | 2コース:   | 5,000円(学生2,500円)                              |
| 楽譜      | データ配布(講師より直接お送りします) ※郵送が必要な場合は、500円必要   |         |   |
| 受付期間    | 7月 11日(土)10時~7月 31日(金)15時   |         |   |
| 申込方法    | ホームページのフォームから申し込み ( <a href="https://www.kogaku.net/">https://www.kogaku.net/</a> ) =>> |         |   |
| お問合せ    | 新・福岡古楽音楽祭事務局 Email <a href="mailto:kogaku.fes@gmail.com">kogaku.fes@gmail.com</a>       |         |   |



◆課題曲について◆

文責:岩田耕作

[A コース]

アントニオ・ロッチェ「叡智のミサ(Missa Sapientiae)」より

叡智のミサというタイトルは、ロッチェ自身ではなく、この曲を演奏したドレスデンの宮廷作曲家ゼレンカによる命名です。バッハやヘンデルにも多大な影響を与えたこの作品が、まさに音楽における知恵の結晶であるというゼレンカの深い敬意がうかがえます。

Aコースではバッハも手書きで一音一音書き写したというゼレンカの構成による楽譜を使い、バッハが何に感銘を受け自らの音楽に取り入れていったかを探ります。

[B コース]

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ「ミサ曲ロ短調(Messe)BWV232」より

ロッチェは伝統的な対位法を用いた古い形式「スティーレ・アンティコ」と、新しい器乐的な華やかな音楽「スティーレ・モデルノ」を融合させました。

また、歌詞の意味に合わせて、劇的な和声の変化・半音階的な旋律、あるいは跳躍を用いて聴き手の感情を揺さぶる手法「アフェクト」を用いています。

そんな「叡智のミサ」をバッハが自分の音楽に取り入れ、いかにロ短調ミサへと昇華していったかを探ります。

◆講師プロフィール◆ 岩田耕作(アンサンブル指導 / チェンバロ / 他)



6歳のときに失明。7歳よりギターを、高校入試のために14歳よりピアノを始めるが、そのころから古楽に興味を持ち、上京した15歳よりリュートを、17歳よりチェンバロを始める。筑波大学付属盲学校高等部音楽科を卒業後ヨーロッパに留学。ブリュッセル王立音楽院にてチェンバロと室内楽のプルミエ・プリ、ストラスブル音楽院にてチェンバロと作曲法の金賞を受賞。チェンバロを小林道夫、橋本ひろ、アリン・ジルヴェライヒ、チェンバロとオルガンをロベール・コーネン、バス・コンティニューとオルガンをマルタン・ジェステール、作曲法をオディール・シャルベ、マルク・アンドレの各氏に師事。楽器の演奏と共に、専門分野である音楽理論や作曲法の知識を生かした演奏解釈による、器楽、声楽、各種アンサンブル、合唱などの指導、コンサートの企画を行っている。ハルモニニー・セレスト代表。